

診療所だより 平成 25年（2013年）8月

<機能性ディスぺプシア（FD*）>の話

* Functional Dyspepsia

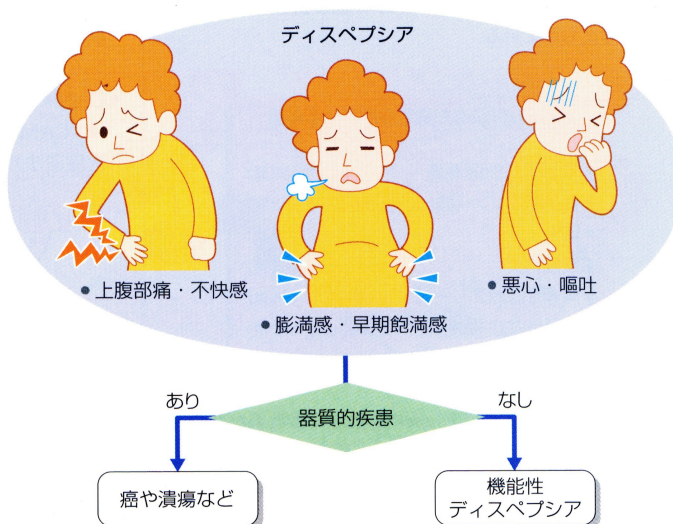


<機能性ディスぺプシア>とは、「胃の痛み」や「胃もたれ」などのつらい症状が続いているにもかかわらず、内視鏡検査などを行っても異常が見つからない（器質的疾患がみとめられない）病気です。（図下）

この<機能性ディスぺプシア>という病気の概念は、近年になって新しく確立されたもので、それまでは<機能性ディスぺプシア>の患者さんの多くは「慢性胃炎」や「神経性胃炎」などと診断されていました。

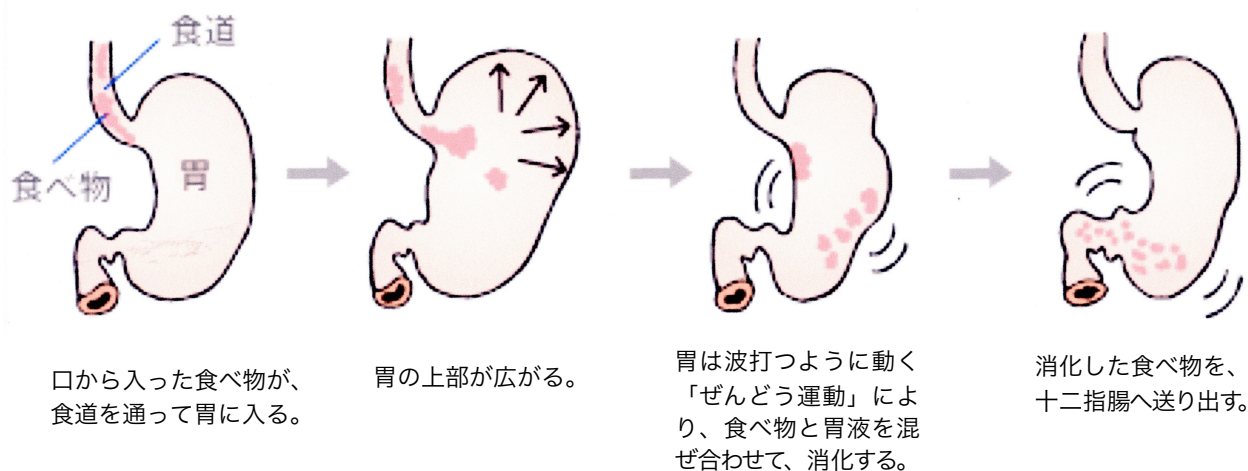
<機能性ディスぺプシア>の患者さんに特に多くみられる症状は、「食後のもたれ感」、「早期飽満感」、「みぞおちの痛み（心窩部痛；しんかぶつう）」、「みぞおちの焼ける感じ（心窩部灼熱感；しんかぶしゃくねつかん）」の4つです。その他にも「吐き気（悪心）」や「嘔吐（おうと）」、「げっぷ」などの症状を訴える方もいます。

*ピロリ菌による「慢性胃炎」とディスぺプシア（症状）の関連性は今のところ明らかではありません。したがって「慢性胃炎」は「ディスぺプシアの原因となる明らかな器質的疾患」に含めないのが一般的です。

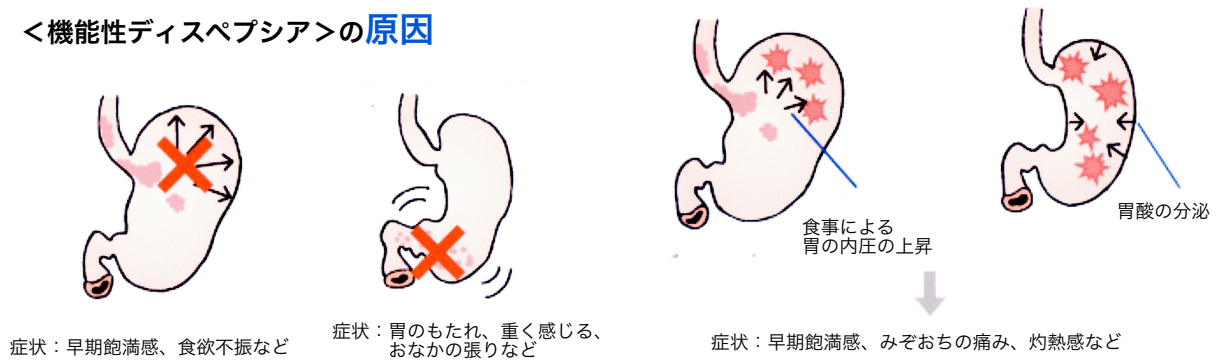


正常な胃のはたらきについて：（図下）

正常な状態の胃は、口から入った食べ物が食道を通過して胃に入ってくると、胃の上部を広げて、胃の中に食べ物をたくわえようとします（貯留機能）。さらに胃は、波打つように動く蠕動（ぜんどう）運動によって食べ物と胃液を混ぜ合わせ（攪拌（かくはん）機能）、食べ物を消化して粥状にし、粥状になった食べ物を十二指腸へ送り出すはたらきを行っています（排出機能）。



<機能性ディスペプシア>の原因



(胃の貯留機能の障害・弛緩反応の低下)

食べ物が食道から胃へ入ってきても胃の上部がうまく広がらず、入ってきた食べ物を胃の中にとどめることができなくなってしまう状態を指します。これにより、「早期飽満感」などが引き起こされます。(図上)

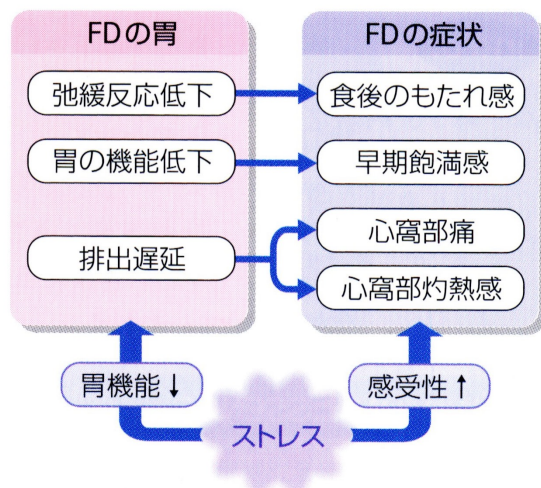
(胃の排出機能の障害)

胃の中にある食べ物を、十二指腸へうまく送ること(排出)ができず、胃の中に食べ物が長くとどまってしまいます。これにより、「胃もたれ」などが引き起こされます。(図上)

(胃の貯留機能と排出機能の関係)

胃の貯留機能と排出機能は密接に関係しています。

本来、胃の中の食べ物は十分な時間をかけて十二指腸へ運ばれますが、胃の貯留機能が障害されると、早期に十二指腸へ食べ物と胃酸が運び込まれてしまいます。すると、十二指腸は胃の排出機能を抑えるように働きかけて、結果として食べ物が胃から排出されなくなり、「胃もたれ」などの症状を引き起こすこともあります。



(胃の知覚過敏)

「知覚過敏」とは胃が刺激に対して「痛み」などを感じやすい状態を指します。正常であれば何も感じない程度の刺激であっても、「知覚過敏」の状態では、少量の食べ物が胃に入るだけで胃の内圧が上昇し、「早期飽満感」が引き起こされたり、胃酸に対して過剰に「痛み」や「灼熱感」を感じる場合があります。(図上)

発症の原因には、上記の様々なものが考えられています。

中でも**ストレス**は胃腸運動機能の低下や知覚過敏をもたらすだけでなく、脳に作用して症状の感受性を亢進させ、病態の悪化を招くとされています。

(図左)

治療

- ・(症状の悪化に関与する) 不安感の除去：例) 「癌の様な重大な病気ではない。」ことの理解など
- ・生活指導
 - ・好ましくない**食生活・嗜好品**：・過食(特に脂っこいもの、甘いもの、刺激の多いものなどのとり過ぎ)
 - ・早食い
 - ・不規則な食生活(欠食、深夜の食事など)
 - ・喫煙
 - ・過度なアルコール
 - ・好ましくない**生活習慣**：**ストレス**、過労、睡眠不足
- ・薬物療法：消化運動促進薬、酸分泌抑制薬、必要に応じて抗うつ薬・抗不安薬など

図は、「病気がみえる vol.1 <消化器>」<MEDIC MEDIA>、astellasホームページ、「アコファイド」製造販売元：ゼリア新薬工業(株)/発売元：アステラス工業(株)資料から引用しました。

この「診療所だより」や診療についての御意見・御要望などをお気軽にお寄せ下さい。
これからの参考にさせていただきます。

編集・発行： 勝山諄亮

勝山診療所

〒639-2216 奈良県御所市343番地の4(御国通り2丁目)